

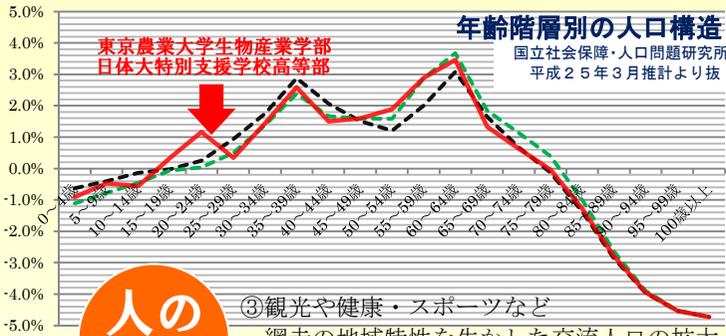


人口減少社会への挑戦

- ①東京農業大学、日本体育大学などと連携し、みずから学び「明日をつくる人の育成」
- ②若い世代を中心として、安心して働ける産業振興と雇用の場の創出

現状認識

1990年以降は、年少人口・生産年齢人口は減少しているが、10歳代後半～20歳代前半の人口が比較的多いことが網走市の特長。



人の創生

- ③観光や健康・スポーツなど
網走の地域特性を生かした交流人口の拡大
- ④若い世代が健康で、希望に応じて
結婚・出産・子育てができる環境づくり
- ⑤支え合い、安心して暮らすことのできる
共生型地域社会づくり

Strong Point

- 全国・全道平均を上回る合計特殊出生率
- 東京農業大学、日体大特別支援学校の存在
- スポーツ合宿の受入れ実績
- 学習・体験型観光資源の集積
- 恵まれた気象条件（日照率、気温変動、降雪量など）
- 極めて少ない地震発生率
- 再生可能エネルギー活用への秘められた可能性
- 第一次産業の高いポテンシャル
- 世界基準の衛生体制を整えた重要港湾「網走港」
- 女満別空港までのアクセス環境

ロシア極東地域への物流の拠点へ
災害バックアップの物流拠点へ

アジア、ロシアからのバイオマス原材料の調達

東京農業大学生物産業学部



- 6次産業化、農商工連携の推進
- 生産・加工・流通の人材育成
- 商品価値の実現と付加価値化

地場エネルギーの利活用

■廃棄する排熱やCO₂を収入化できる。
■環境負荷低減に取り組む企業としてのCSR。



■石油、ガスより安く排熱やCO₂を確保できれば、採算性が向上する。

■排熱などの回収設備費の
コスト解消。



■燃料輸送・設備費などの
コスト解消。

バイオマス発電、地熱発電など エネルギーの域内循環

- 排熱やCO₂の利活用が可能であることを企業にアピールし、積極的な誘致・設置に取り組む。
- 事業パートナーとなり得る地元農業者・事業者との連携を推進する。

農水産物の集約化、高付加価値化

- 日本最大級の麦類乾燥調製貯蔵施設
【貯蔵量30,000ト】
- 小麦集出荷施設（船積センター）
【貯蔵量18,000ト】
- EU・HACCP対応
【ホタテ、秋鮭】
など
- 自治体の枠を超えた圏域で、産学官金が連携し、人・モノ・金などの流れを生み出し、圏域を活性化する可能性を探る。

■プロフィールを語る品質をもつ
地場産品を海外へ輸出

食関連産業創生

■良質なオホーツクの農水産物
ブランド形成と販路拡大

オホーツク農業活性化のシンボリックな施設

「植物工場」「製粉工場」

■通年生産が可能で、
付加価値を高める食関連産業の展開

雇用機会の創出

■首都圏など他地域から、セカンドキャリアを志向する健康で学習意欲旺盛な中高年の受入をはじめ、日体大附属特別支援学校の卒業生を中心とする障がい者や女性・若者・高齢者など社会的弱者の就労拡大により、
総合力として生産年齢人口を増やす。